

### 3. ボランティアリーダー育成事業

ボランティア・NPO 活動センターでは、本学の学生を対象にボランティアに関する各種講座を実施しています。入門編として、ボランティアについての基礎的な講義とボランティア体験を行う「ボランティア入門講座」、応用編として、センターを運営する学生スタッフや既にボランティア活動を行っている学生を対象に、スキルアップや組織運営の向上を目指した「ボランティアリーダー養成講座」、「ボランティアコーディネーション力3級検定」を開催しています。今年度は参加人数を例年より減らすなど新型コロナウイルス感染症感染対策に留意をしながら、出来る限り対面形式で実施しました。制限のあった期間に関しては、オンラインで開催し臨機応変に対応しました。

事業名	ボランティア入門講座
オンライン講座	2021年5月27日(木) 17時30分～19時00分／参加者43名
ボランティア体験	2021年8月7日～11月13日の間に計7ヶ所で体験を実施／参加者65名
協力	受入団体：7団体(ボランティア体験)
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター

#### 1. 経緯・目的

学生が何か新しいことを始めたいと感じる年度初めに、毎年本講座を実施しています。ボランティアに関心はあるけれど、活動未経験や活動経験が少ない本学学生と、ボランティア・NPO 活動センターの学生スタッフ新登録者を参加対象とし、その後のボランティア活動につなげるきっかけとなることを目指しています。

講義部分はオンライン(LIVE・オンデマンド配信)で予定通りに実施できたものの、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、ボランティア体験については当初の予定から大幅に日程を変更しての実施となりました。

#### 2. 概要

##### (1) ボランティア入門講座(講義)

開催日時：5月27日(木)

開催方法：オンライン(ZoomでのLIVE配信とYouTubeでのオンデマンド配信)

参加人数：LIVE参加43名

(申込者数：130名)

内容：センターのコーディネーターが、ボランティアの基礎的な事柄についての講義、活動する上での注意事項、ボランティア・NPO 活動センターについてなどをパワーポイントを使って説明しました。LIVEでの参加者は、ブレイクアウトセッションで

グループに分かれ、感想をシェアしました。

##### (2) ボランティア体験プログラム(7か所)

少人数もしくは屋外の活動を中心に、感染防止対策を講じながら実施しました。団体の協力を得ながら、オンライン活動の体験も取り入れました。各体験後、引率したコーディネーターの進行で、必ずふりかえりの時間を持つようにしました。体験先については以下の通りです。

##### ①子ども食堂での活動

8月7日(土)、10月2日(土)

受入団体：晴嵐みんなの食堂(NPO法人CASN)

参加人数：各3名



##### ②ボッチャ体験 8月7日(土)

受入団体：ライトニング滋賀

参加人数：9名



- ③障がい福祉事業所とのオンライン交流会  
 ① 8月10日（火）、②31日（火）、③ 9月7日（火）  
 ※オンライン活動  
 受入団体：日中一時支援事業所らて  
 （NPO 法人りあん）  
 参加人数：① 3名、② 2名、③ 3名



- ④新聞記事のデジタル化 9月11日（土）  
 ※オンライン活動  
 受入団体：社会福祉法人大阪ボランティア協会  
 参加人数：7名



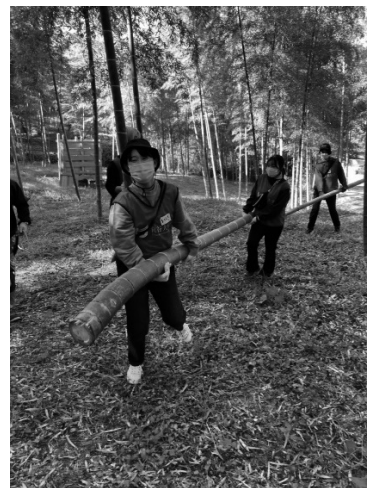
- ⑤子どもと一緒に遊ぶ 10月9日（土）  
 受入団体：梅小路プレイパーク  
 参加人数：10名



- ⑥森林整備 11月7日（日）  
 受入団体：森の風音  
 参加人数：7名



- ⑦竹林整備 11月13日（土）  
 受入団体：京都風緑  
 参加人数：13名



### 3. 受講者の声・得られた効果など

（講座）

- ・ボランティアが自分の価値観に影響を与えるという話を聞いて自分も新しい発見や成長をしたいと

思いました。

- ・ボランティアの根本的な定義から活動をする上で大切なこと、ボランティアの種類などの説明があつてより興味を持つことができました。積極的に参加することが大事だということを忘れずに活動したいです。
- ・幅広い年代層だけでなく、国内から海外まで、思った以上に広い地域でボランティアに参加しておられることを聞いて、驚きました。自分の価値観や知見を広げる上でも、多くの人と関わり、まずは自分からやってみることが大切だと言うことを理解しました。
- ・講座を受けるまでは、被災者や人手を必要としている人々を助けるという点で自分ではない他の人のためにすることがボランティア活動であると考えていましたが、受講後は自分の視野を広げたり成長させてくれるという点で、自分自身や自分の将来のためのものであるという考え方に変わり、良かったと感じています。

(ボランティア体験)

- ・ポッチャをできる体験はめったにないので、とても良い経験になりました。テレビで知ってはいたけど本当に平等なスポーツであること、ルールはシンプルなのに意外と難しいこと、色んな戦術があることなど、たくさんのが学べました。選手の方々とのお話も楽しかったです。これを機に色んな人に広めたいと思います。
- ・もっとこうすれば良かったとか、これが出来て良かったとか、様々なことを感じられる時間になりました。今後の活動に活かしていきたいです。
- ・オンラインでしたが思っていたよりもコミュニケーションが取れてとても楽しく活動できました。
- ・自分から話しかけるのが苦手なタイプなので、このボランティアは自分に向いていないのではないかと不安だったのですが、気がついたら子どもたちと楽しく遊んでいて、杞憂に終わりました。機会があればまた参加したいです。
- ・竹林について、あまり考えたことがなかったので、この体験は竹林について考えるととても良い経験になりました。作業は大変でしたが、やりがいがあった、とても楽しかったです。ありがとうございました。

#### 4. コーディネーター所感

講座から体験、振り返りまでを夏期休暇が終わるまでに実施する予定でプログラムを組んでいましたが、感染拡大に伴い、その予定を大幅に変更することとなりました。5月のオンライン講座の後、オンデマンド配信もおこなったことにより、多くの学生に受講してもらうことができました。また、本学の教職員にもオンデマンド視聴ができるよう案内をし、学内のボランティアの裾野を広げる取り組みとなりました。

ボランティア体験については、中止せざるを得なくなった活動や、時期を大幅に変更することになった活動もありました。そんな中、オンラインでできる活動を新たに設けたり、東京パラリンピック開催ということもあり、パラリンピック正式種目であるポッチャの体験なども地域の団体に協力いただいて実施することができました。

毎年、参加した学生の満足度は高いプログラムではありますが、体験後のボランティア活動につなげることの難しさも感じています。体験受け入れ団体より、今回の体験前に、体験受け入れ後の継続した活動につなげるにはどうしたらよいかという相談がありました。大学側からの学生への働きかけだけでなく、団体としても工夫してみるということで提案があり、活動後の振り返りの時間に団体からいろいろなお話を聴かせてもらったり、学生へのフィードバックをいただくことができました。また、数年ぶりに体験を受け入れていただいた団体からは、3年前に来てくれた学生（当時）が、その後も定期的にボランティアに参加しているという話を聞かせていただきました。

学生が、継続的にボランティアができる環境をつくるということは、学生の成長にとっても団体や地域社会にとってもプラスになることが多いと考えています。地域のボランティア団体とコミュニケーションをとり、より良いプログラムを共に創っていくという視点を大切に、次年度も取り組んでいきたいです。

〈報告者：國實 紗登美

(瀬田キャンパス コーディネーター)〉

事業名	ボランティアリーダー養成講座 「チーム力を上げるには？Ⅰ」
実施日	2021年8月5日（木）13：30～16：00
実施形態	深草キャンパス 22号館302教室
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター
参加人数	本学学生58名

## 1. 経緯・目的

昨年度から続くコロナ禍で、課外活動が自粛された影響により、学生スタッフのみならず、学生のサークル活動等が活動停止や解散など、チーム力の低下、弱体化が大きな課題となっています。活動を再度活発化させ、自発的な活動を取り戻すためには、学生間のリレーションシップの再構築と、思考をもっと柔軟にすることが必須だと考えました。

学生は対面で何かをするという経験値が圧倒的に少なく、そこに大きな課題を感じていました。そのため例年通りの定員（80名）から参加者人数を減らし、出来る限りの感染防止対策を行いながら“対面”で、「あそび」をテーマに「チーム力」を上げるための秘訣を考える講座を開催しました。

## 2. 概要

講師：西川 正氏

（ハンズオン埼玉 理事）

内容：安心できる環境の中で「話す」「聴く」を体験するとともに、講師のレクチャーを挟みつつ、段階を踏みながら深い話ができるような場づくりのワークショップを実施しました。

○主に実施したワークは以下の通り

### ①トークフォークダンス

二重の輪になって決められたテーマについて向かい合った2人が話す。片方は聞いてリアクションだけで、もう一方が話す。これを交代で1分間1セット話してフォークダンスのようにズレていき、別のテーマで話すということを何セットか繰り返す。話したくない時は、う～んと言っておけばOK。

### ② slido（スライドゥ）を使った意見だし体験

オンラインでも活用できるように新しいツールを使って、意見だし体験。最初は、好きな音楽といったものを出し合い、それに対して「いいね」をつけて反応し、楽しみながら操作を覚えた後、「自分が今困っていること」「不安に思っていること」などを出し合いました。

※ slido（スライドゥ）はリアルタイムに聴講者が

ら質問やライブでアンケートを行うことができるクラウドサービスです。

### ③ペアワーク

二人でペアになって、講師が出すテーマについて語り合いました。誰も答えやすいテーマからはじまり、だんだんと深いテーマで話し合いました。



## 3. 受講者の声・得られた効果など

- ・3時間とは思えないくらいあっという間でした。今回の講座で色々な人と話す事ができ、人によって持っている意見が全く違うことを知ることが出来ました。これから、もっと沢山の人の意見を聞いて受け止めていきたいと思いました。
- ・最初に行ったトークフォークダンスは互いの緊張をなくすことをスムーズに行えたので、やってみたいと思いました。また、子供たちの想像力の大きさや、様々な交流の方法が知れておもしろかったです。自分も何かしら生み出してみたいと思いました。「あそび」を意識して、押し付けがましくならないように。
- ・「応え」が必要な環境というのがどれだけいいものか、普段は無意識に感じていたと思うが、今回の講義を受けてははっきりと「応え」の重要性を理解することができた。
- ・グループでの交流主体だったので、講座前は少々億劫だと思っていたが、全くそんなことはなく、非常に面白かった。3時間があっという間でした。
- ・様々な人たちの言葉を聞くことが面白いことに気

付き、「応え」あうなかで「面白い」ことが生まれることを強く実感した。 など

#### 4. コーディネーター所感

新型コロナウイルス感染症が急増している時期でもあり、対面なのかオンラインなのかギリギリの判断でしたが、出来る限りの対策を講じながら“対面”で実施することができました。

終了後も、講師に質問に行く学生が多く、アフターコロナの活動を考える上で良いきっかけになったのではないかと考えています。

匿名で意見を出すワークでは、こんなに不安な想いがあふれているのか！？と思うくらい、たくさんの想いが次々とスマホの画面に表示されたことには驚きでした。その内容のほとんどが、「メンバーの顔と名前がなかなか一致しなくて、まだ覚えていない人に声をかけられると申し訳ない気持ちになる」

「グループLINEで話題を出した時に、反応が返ってこなかったら、不安になる」「分からない事があって、先輩は気軽に聞いてくれてもいいよと言っているが実際聞くのは気が引けてしまう」など、考え過ぎていたり、もう少し周りの反応があれば解決することばかりでした。

実際に対面で話す、聴くといったことを、入学以来ほぼ出来ていなかった学生が多く、教室の窓を全開にしていたため、「暑い」と口々に文句を言っていました。とても楽しそうで、時間が経つにつれて顔が生き生きとした表情になって来るのが印象的でした。よほど、対面で話すということに飢えていたのだということを痛感しました。

〈報告者：竹田 純子

(深草キャンパス コーディネーター)〉

事業名	ボランティアリーダー養成講座 「チーム力を上げるには？Ⅱ」
実施日	2022年2月2日(水) 13:30~16:00
実施形態	瀬田キャンパス 6号館プレゼンテーション室
実施主体	ボランティア・NPO活動センター
参加人数	本学学生31名

#### 1. 経緯・目的

夏に実施した講座が大好評だったため、今回の講師も、NPO法人ハンズオン埼玉の西川氏にお願いして、チーム力向上を考えるための講座を実施しました。今回は、チームの中で起こること、それを理論的にどう捉えるのかなど、考えてみるということにもじっくり取り組みながら、今後の活動に活かせるようになることを目指しました。

#### 2. 概要

講師：西川 正氏

(ハンズオン埼玉 理事)

内容：①トークフォークダンス

②会議設定のミニレクチャー

基礎的な会議の場面設定(席の配置の意味)

③ミーティングを考える

ミーティング場面などで「自分たちが困っていること」をその場で募り、みんなで考えながら、講師がそこにご自身の経験など

を踏まえながら答える時間



#### 3. 受講者の声・得られた効果など

- ・【共有→拡散→収束→行動】の図を見たところから、のめり込むように西川さんの話しを聞いていた。第一回目の講座を思い出しながら、理論的にどう表すことができるのか知ることができて良かった。
- ・私自身、これまで、ミーティングや会議を引っ張る立場にいることが多く、その時にこんなこと悩んでたとかこうすればいいんだ！ということ

知ることができました。どんな場においても、安心感のある場所を作ることがどれほど大切かということがよく分かりました。自分に置き換えても、緊張感でいっぱいミーティングには参加しようとも思わないし、参加するのが辛くなります。また集まりたい、話したいと思えるには、ミーティングに参加する一人一人が安心して参加できる雰囲気作りが必須だと思いました。また、何かを食べながら、会議をすることも大切とおっしゃっていたことも印象的でした。コロナ禍になり、友達ともご飯を一緒に食べることも躊躇われ、ご飯を一緒に食べながら話すということの楽しさや大切さを忘れかけていた自分に気付きました。人と会って話すことの大切さやその幸せを改めて実感することができました。

- ・ すぐくためになりました。具体的には、①話し合いは1番発言しにくい人に合わせることで皆が安心を得られること、②全体の振り返りでは具体的な事実など次にやる気になるようなことを言うことと良いこと、③リーダーは「責任は共有、作業は分担」にすることが大事だということ、④何かを決める際の手順と注意点（特に意見の背景の「大事にしたいこと」を考えるのはためになりました）。そして何より、⑤やる気を引き出すには安心とそれぞれの人に合った余地が必要なんだと学

びました。まずはきちんと話を聞いて反応することを、意識的に継続してやっていこうと思います。

#### 4. コーディネーター所感

対面が本格的に始まり、ミーティングなど活動の根幹となるものが上手く出来ない。何かしっくりこない。どうしたらいいのだろうか？など、様々な悩みを抱える学生に向けてこの講座を実施しました。講師にはあえて楽しいだけではなく、じっくり考えるような時間を作って欲しいと依頼していたので、満足度の差が激しかったように思います。スキルだけを求めている学生にとっては面白くなかったと思います。しかし、日ごろからチーム運営に向き合い、頭を悩ませている学生にとっては、自分の悩みを語り、講師や参加者から別の視点でアドバイスや見方を教えてもらえる時間はとても気づきの多い時間だったと思います。

答えをただ単に教わるだけではなく、自分自身が考え、人の話を聴き、判断していくことのしんどさと楽しさに気づく時間になったのではないかと考えています。

〈報告者：竹田 純子

（深草キャンパス コーディネーター）〉

事業名	ボランティアコーディネーション力3級検定 ～ボランティアをより深く理解し、豊かな活動とするために～
実施日	2021年12月18日（土）10時00分～18時00分
場所	深草キャンパス 22号館101教室
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター／ 特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会（JVCA）
参加人数	学生28名、教職員1名、学外者1名 合計30名

#### 1. 経緯・目的

「ボランティアコーディネーション力」は、既にボランティア活動をしている学生や、将来ボランティアと関わる進路を目指す学生、そして学内でボランティア紹介等をおこなう当センターの学生スタッフなどに求められる力であり、3級検定はボランティア関係者だけでなく、自治体職員や企業の社会貢献部門の方、施設職員なども多数受験している資格となっています。

このことから、本学学生・教職員および一般の方


がボランティアコーディネーションへの理解を深め、実践的な取り組みの担い手として活動する力をつけることを目的として、本検定を学内で実施しました。

#### 2. 概要

○受験資格など

要件：ボランティア活動経験があるか、ボランティアコーディネーション経験またはその予定があること

公益財団法人  
日本ボランティアコーディネーター協会 共催



RYUKOKU UNIVERSITY

# ボランティア コーディネーション036 検定

龍谷大学生は  
補助あり！

## 3級検定を深草キャンパスにて開催

ボランティアをより深く理解し、豊かな活動とするために  
ボランティア活動の広がりに欠かせない、「ボランティアコーディネーション力(りょく)」,市民の「参加の力」を活かし、  
組織の発展や自治的な社会づくりを進める調整能力は、ボランティアリーダーやNPO、施設のスタッフ、そ  
れに自治体職員など多くの人々に求められる資質です。以下のいずれかに該当する方は、ぜひ資格取得を目指  
してください。

これまでにボラン  
ティア活動の経験がある。

これまでに地域社会、組織(施  
設・機関、NPOなど)において、  
ボランティアコーディネーショ  
ンに関わった経験がある。

ボランティアコーデ  
ィネーションに関わる予  
定がある。

**日時:2021年12月18日(土)**  
10:00~18:00  
(直前研修 10:00~16:30/検定試験 17:00~18:00)

**場 所:**龍谷大学深草キャンパス  
22号館101教室

**定 員:**30名(先着順)

**申込締切:**2021年12月3日(金)  
※お申し込みを受理してはいますが、状況により変更することがあります。

◎受験資格【※年齢は問いません】(1)と(2)の両方に該当している方。(裏面も必ず確認してください)

(1) ①②③のいずれかに該当していること。  
① これまでにボランティア活動の経験がある。  
② これまでに地域社会、組織(施設・機関、NPOなど)においてボランティアコーディネーションに関わった経験がある。  
③ ボランティアコーディネーションに関わる予定がある。  
④ ボランティア活動の指導に該当する経験、内容を記載いただきます。  
(2) ③級検定直前研修を受講していること。  
・申込完了後、テキストと受験票をお渡しいたします。  
・テキストを返却した直前研修終了後、検定試験を行います。(検定試験のみの参加申込はできません)  
・出題形式:択一・択多(4択)、出題範囲:公式テキストから90%以上を出題  
・試験時間:50分、検定時間:60分、合格基準:70点以上(100点満点)

**直前研修 講師プロフィール**

筒井のり子 (龍谷大学 社会学部教授)

1983年に関西学院大学大学院修士課程修了、大阪ボ  
ランティア協会に勤務し、市民活動団体の事務局長を7  
年間担った。1999年4月より龍谷大学助教授、地域福祉課、  
ボランティア・NPO課、NPO法人日本ボランティア  
コーディネーションセンター 監会理事、著書に「ボランティアコー  
ィネーション力」第2巻「市民の社会参加を支えるチ  
カラ」(共著2017年)等

【問い合わせ先】龍谷大学ボランティア・NPO活動センター ryuvnc@ad.ryukoku.ac.jp

受験料:JVCA 主催検定価格12,000円のところ、本  
学学生は6,520円で設定(大学より補助)

○当日の流れ:

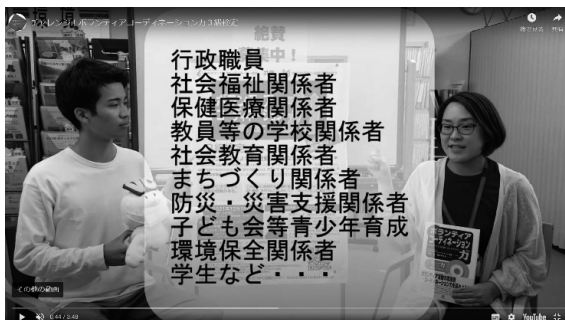
1. 直前研修(講義) 10:00-16:30  
序章 今なぜ、ボランティアコーディネーショ  
ン力なのか?  
1章 ボランティアの理解  
2章 ボランティアコーディネーションの理  
解
2. 検定試験 17:00-18:00

○講師:筒井 のり子

本学社会学部教授、ボランティア・NPO  
活動センター長、日本ボランティアコー  
ィネーター協会理事

○事前広報

- 紙媒体:チラシ、ポスターなどの作成  
WEB媒体:HP、ポータル、Twitter、動画作成  
その他:センター委員など関係教員の授業前広報



### 3. 受験者の声

申し込んだ時にもらったテキストの中身を読んだ  
後、実際に講義を受けて改めて腑に落ちることが多  
かった。自分自身、ボランティアもしているので理  
解しているつもりでいたが、慈善活動や奉仕活動と  
ボランティアの違い、「有償ボランティア」「ボラン  
ティア派遣」という言葉はおかしいことなどに改め  
て気づき、ボランティアの定義を曖昧にしか理解し  
ていなかったことがわかった。

ボランティアコーディネーションは、身近な活動  
や状況の中でも発揮できることだと知れたので、ボ  
ランティアに興味はあるけど参加していない人が多い  
現実を少しでも変えていけるよう、学生スタッフと  
してボランティア促進に取り組んでいきたい。

### 4. コーディネーター所感

本検定は市民の参加の力を活かし、組織の発展や  
自治的な社会づくりを進める NPO や施設のスタッ  
フ、ボランティアリーダー、自治体職員など多くの  
人に求められる資質です。

このため、今回は特に学生に向けて「民間資格で  
はあるものの、今後の進路にも活かせる」というこ  
とをポイントに、各種広報物を作成したり、関係教  
員の授業前にアナウンスさせていただいたりといっ  
た広報活動を行いました。その結果、申込状況が例  
年になく早く動き、締切日1カ月前に定員に達しま  
した。

「ボランティアしたい」という学生の声の奥にど  
のような想いがあるのか、ボランティアプログラム  
などを広報する際には、さまざまな視点を伝えてい  
く必要があると改めて感じたとともに、今後も本検  
定のすそ野がより広がるよう、発信していきたいと  
思っています。

〈報告者:ヒギンズ 尚美  
(瀬田キャンパス コーディネーター)〉

